

平成 24 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス						
教科目名	建築史 I	担当教員	清水隆宏			
学年学科	2 年 建築学科	通年	必修	2 単位		
学習・教育目標	(D-2) 100%					
授業の目標と期待される効果： 建築に携わる者は、社会の変動を見つめ、大局的な視点で発想をすることが求められる。具体的には、建築が社会の変化といかに関わり、その結果どのような変遷・形態を生じたのかを把握することで、建築をより深く理解する。		成績評価の方法： 前・後期ともに中間試験 100 点＋期末試験 100 点、通年合計 400 点の総得点率 (%) により評価する。 また、授業に対する姿勢も考慮し、授業の進行を妨げる行為・消極的な行為に対しては、得点率の 1～10% を減じた値で評価する。 具体的には、出席簿に記載した注意の回数と減点 (%) を対応させる。				
学習・教育目標 ① 西洋各時代の建築様式の変遷を理解する。 ② 西洋の建築・都市における生活環境と、その歴史的・文化的背景の理解 ③ 近代建築から現代建築に至るプロセスを理解する。 ④ 近代建築の建築的特性を作品と関連させて理解する。		達成度評価の基準： ①～④の成績評価の重みは、①：②：③：④＝6：4：5：5 である。 ① 西洋の古代から近世各時代における建築様式に関する説明問題が、6 割程度以上理解できる。 ② 社会の変化が、西洋各時代の建築に与えた影響に関する説明問題が、6 割程度以上理解できる。 ③ 近代から現代における建築様式およびその変遷過程に関する説明問題が、6 割程度以上理解できる。 ④ 近代建築の各時期の建築作品の作者、建築的特性に関する説明問題が、6 割程度以上理解できる。				
授業の進め方とアドバイス： ・用語を丸暗記するのではなく、作品と結び付けて理解するように努めること。 ・身近で確認できる建築形式については、積極的に見学して体験とともに理解することを勧める。 ・図書館等で、関連する文献（専門書・一般書・雑誌・写真集）に触れることが望ましい。						
教科書および参考書： 前期：改訂 西洋建築史図集（日本建築学会編 彰国社）、建築史（堀内捨巳他 理工図書社） 後期：【図説】近代建築の系譜－日本の西欧の空間表現を読む－（大川三雄他 彰国社）						
授業の概要と予定：前期						
第 1 回：西洋建築史の意義と西洋建築の発生						
第 2 回：西洋古代－エジプト建築						
第 3 回： // －オリエント建築						
第 4 回： // －ギリシア建築						
第 5 回： // －ローマ建築（1）						
第 6 回： // －ローマ建築（2）						
第 7 回：西洋中世－ビザンチン建築、イスラム建築						
第 8 回：中間試験						
第 9 回：西洋中世－ロマネスク建築、中間試験の返却・解説および評価の説明						
第 10 回： // －ゴシック建築						
第 11 回：西洋近世－ルネサンス建築（1）						
第 12 回： // －ルネサンス建築（2）						
第 13 回： // －バロック建築（1）						
第 14 回： // －バロック建築（2）、ロココ建築						
第 15 回： // －ネオクラシシズム（新古典主義）の建築						
期末試験						
第 16 回：フォローアップ（期末試験の返却・解説および評価の説明）						

授業の概要と予定：後期
第17回：西洋近代－近代建築を学ぶことの意味
第18回： 〃 －19世紀の試行錯誤
第19回： 〃 －近代建築前夜からモダニズムの幕開けへ
第20回： 〃 －モダニズム建築1（欧州各国の建築）
第21回： 〃 －モダニズム建築2（表現主義と有機的建築、近代の都市）
第22回： 〃 －伝統への回帰
第23回： 〃 －近代から現代へ
第24回：中間試験
第25回：日本近代－西洋建築技術の伝来（洋式工場建設と擬洋風建築）、中間試験の返却・解説および評価の説明
第26回： 〃 －お雇い外国人による近代建築
第27回： 〃 －日本人建築家の誕生とその後の活躍（明治期の近代建築）
第28回： 〃 － 〃 （大正昭和前期の近代建築）
第29回； 〃 －近代都市住宅の確立と小住宅への挑戦
第30回： 〃 －モダニズム建築の登場
第31回： 〃 －モダニズム建築のその後の展開
期末試験
第32回：フォローアップ（期末試験の返却・解説および評価の説明）